

# 県内経済動向調査結果(平成22年1月分)

平成22年3月11日

産業経済政策課

## 概 況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるほか、小売業の一部で経済対策効果が表れているものの、総じて厳しい状況が続いている。

主な業種	状 況
製 造 業	持ち直しの動きが続いている 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比35.7%増、同37.6%増となった。 3か月先の業況見通しDIは▲13.3から0.0となった。
建 設 業	厳しい状況となっている 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比58.5%増、同4.1%増となった。 3か月先の業況見通しDIは▲56.3から▲37.5となった。
小 売 業	一部に経済対策効果が表れているものの、引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比6.5%減、3か月先の業況見通しDIは▲58.6から▲50.0となった。
サービス業	弱めの動きとなっている 売上高は前年同月比11.1%増、3か月先の業況見通しDIは▲44.4から▲37.0となった。

# 製造業の動向

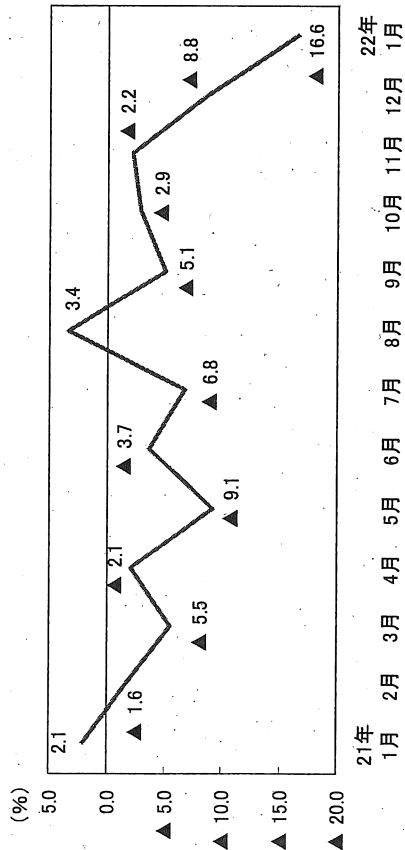
## 1 食料品

### 弱めの動き

生産額は前年同月比16.6%減。3か月先の業況見通しDIIは▲50.0から▲28.6となった。

酒類では、業務用の悪化などもあり、落ち込んでいる。菓子類では、取引価格の値引き競争が厳しい状況にあり、売上の落ち込みが見受けられる。加工食品、調味料関連でも減産となっており、総じて弱めの動きとなっている。

食料品生産額前年同月比



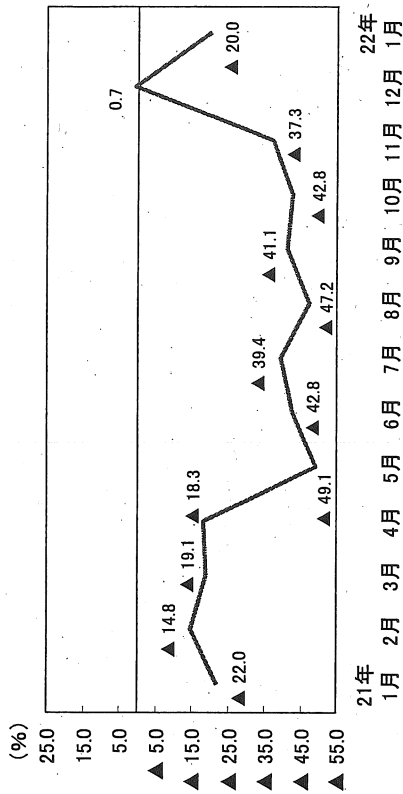
## 2 繊維・衣服

### 低調な生産

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比20.0%減、同21.4%減。3か月先の業況見通しDIIは0.0から▲16.7となった。

一部、春物の受注が堅調な企業があるものの、百貨店ほか小売店での衣料販売が減少していることや、生産加工単価の下落などから、全体としては、前年同月比がマイナスとなっている。例年夏物衣類は受注自体が少ないことから、今後の夏物の生産に向けて、景況の悪化を懸念している企業が見受けられる。

繊維・衣服生産額前年同月比



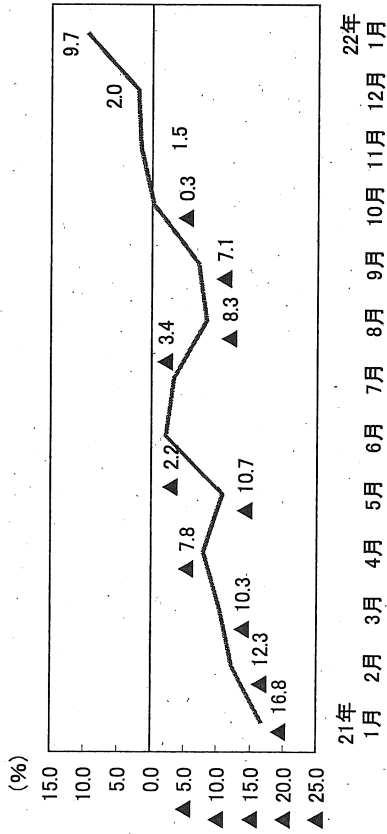
3 木材・木製品

やや持ち直しの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.7%増、同10.0%増。3か月先の業況見通しDIは▲25.0から▲8.3となった。

合板では、販売単価が若干上昇傾向にあり、前年同月比プラスとなっている。全体としては3カ月連続でプラスを確保し、やや動きが見られる。住宅市況が落ち込んだままであるが、今後住宅エコポイントの効果による需要増が期待される。

木材・木製品生産額前年同月比



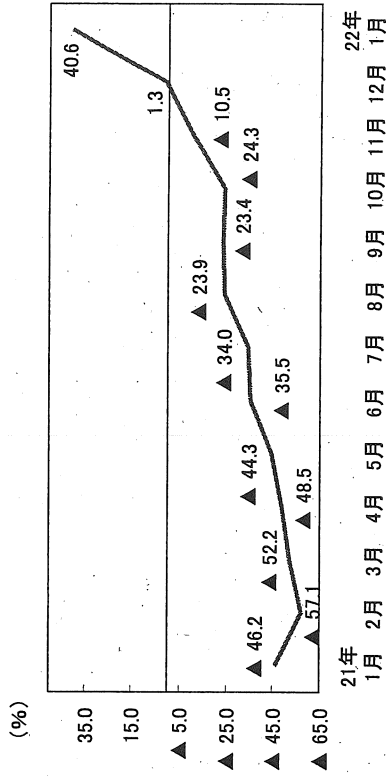
4 鉄鋼・金属製品

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比40.6%増、同65.9%増。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲9.1となった。

前年の生産額の落ち込みが大きかったために、前年同月比では大きくプラスになっているものの、時短休業や、臨時休業を行っている企業もある。輸送機械部品関連では、動きが見られるものの、鉄鋼の産業設備関連では、発注件数の減少から受注競争が厳しい状況となっている。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



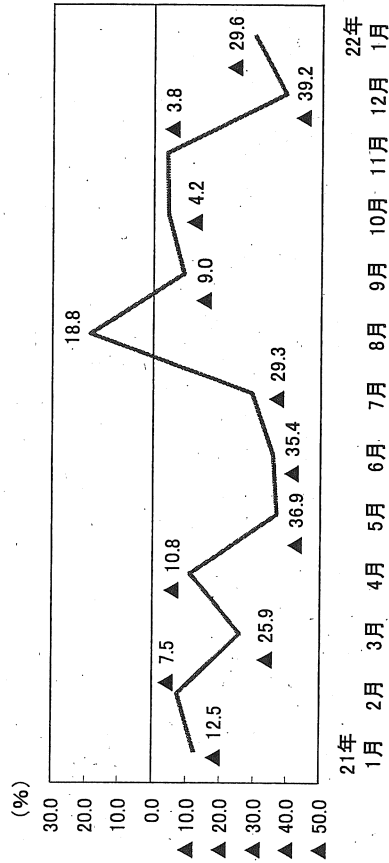
5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比29.6%減、同18.4%減。3か月先の業況見通しDIは▲14.3と変わらない。

一部の産業機械関連で持ち直しの動きが見られるほかは、低調な生産活動となっている。休業日を設ける企業も見受けられるなど、弱めの動きとなっている。

一般機械生産額前年同月比



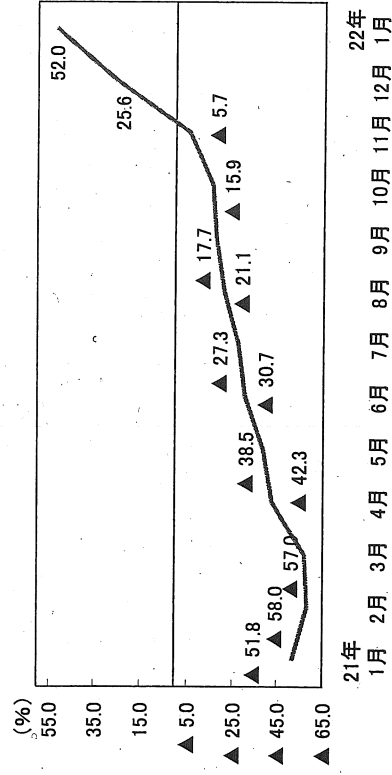
6 電気機械

持ち直しの動きが続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比52.0%増、同48.6%増。3か月先の業況見通しDIは10.5から26.3となった。

前年の生産額の落ち込みが大きかったために、前年同月比では大きくプラスとなっているものの、昨年秋季以降の落ち込み以前の水準までの回復までには至っていない企業が多い。コンデンサーでは、自動車関連や、中国、北米など海外向けが好調となっている。抵抗器では、自動車関連の回復の動きを受けて、生産設備の検査装置向けが増加している。

電気機械生産額前年同月比



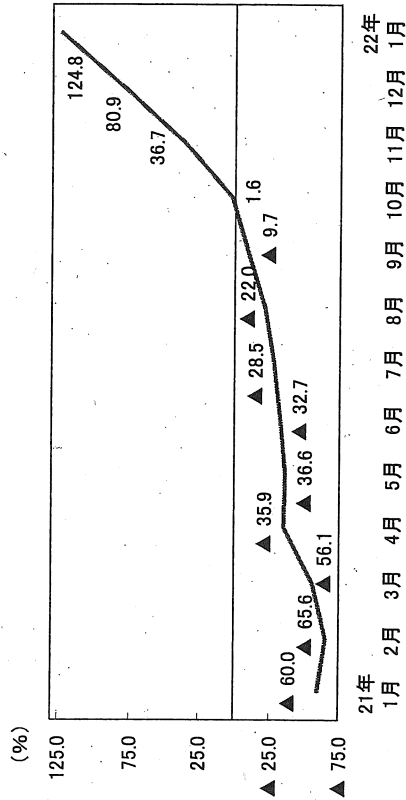
7 輸送機械

回復基調が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比124.8%増、同120.8%増。3か月先の業況見通しDIIは▲33.3から▲16.7となった。

残業、土曜日出勤により増産を行っている企業もあり、国・県のエコカ一購入への助成が追い風となって、堅調な推移が見込まれるものの、海外向け製品が現地調達に移行する動きもあり、今後の減産が懸念される状況も一部見受けられる。

輸送機械生産額前年同月比



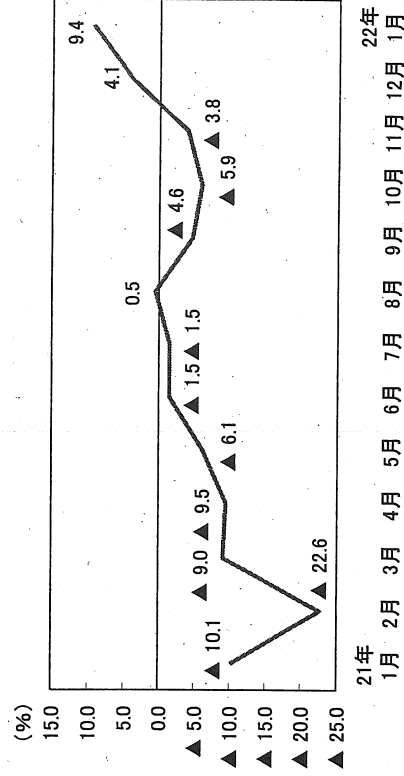
8 精密機械

弱含みとなっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.4%増、同7.6%増。3か月先の業況見通しDIIは0.0から50.0となった。

工場の製造ライン向けの照明装置で回復の動きが見られるほか、光学部品関連で堅調な動きが続いている。医療機器関連では、横ばい状態にある。計量関連では、減産が続き、臨時休業を実施している企業が見受けられる。

精密機械生産額前年同月比



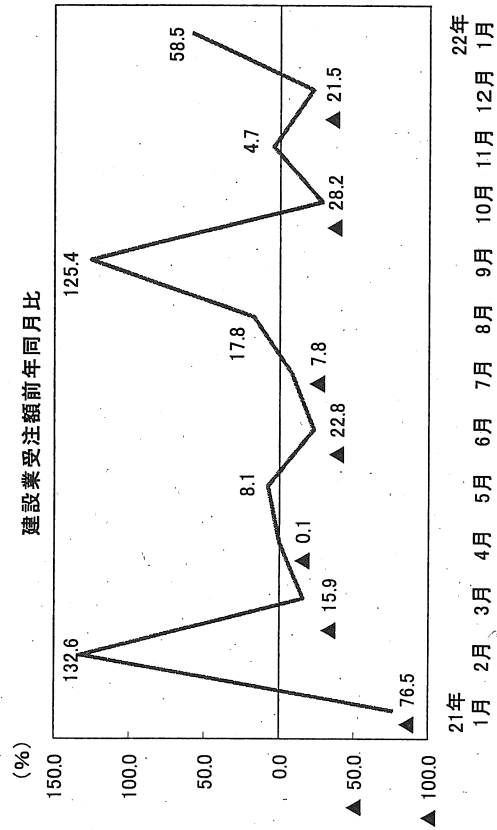
## 建設業の動向

### 建設業

#### 厳しい状況となっている

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比58.5%増、同4.1%増。3か月先の業況見通しDIは▲56.3から▲37.5となった。

一部企業の民間建築工事の受注が好調だったほか、公共事業による下支えも見られ、全体としては前年同月比がプラスとなった。その一方で、季節的な要因もあり、受注がゼロの企業や小規模修繕のみの企業が見受けられるなど、厳しい状況となっている。



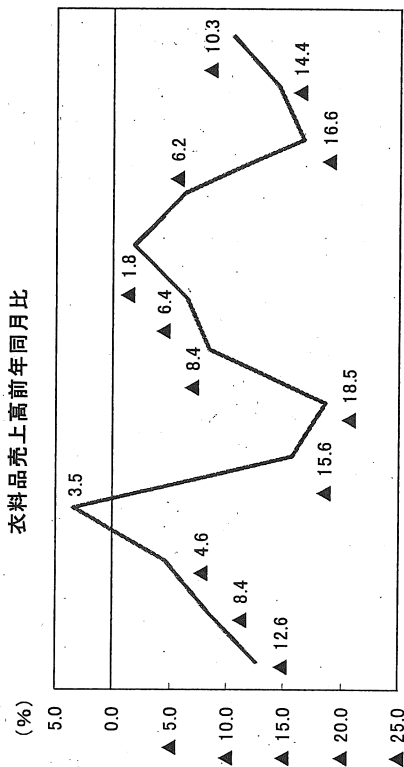
# 小売業の動向

## 1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比10.3%減。3か月先の業況見通しDIは▲66.7から▲33.3となった。

悪天候であったため、年始の初売りが苦戦だったこともあり、低調な売上となった。消費の冷え込みが続いており、必需品のみを購買する状況が見受けられる。



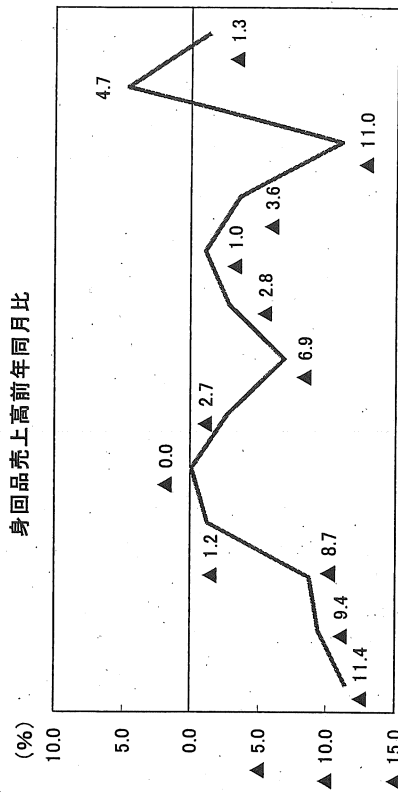
21年 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月  
22年

## 2 身回品

弱含みとなっている

売上高は前年同月比1.3%減。3か月先の業況見通しDIは▲50.0から▲66.7となった。

ホームセンターで、除雪用品や防寒具に若干の動きが見られたものの、低価格志向から、売上、利益が落ち込んでいる状況にあり、弱含みとなっている。



21年 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月  
22年

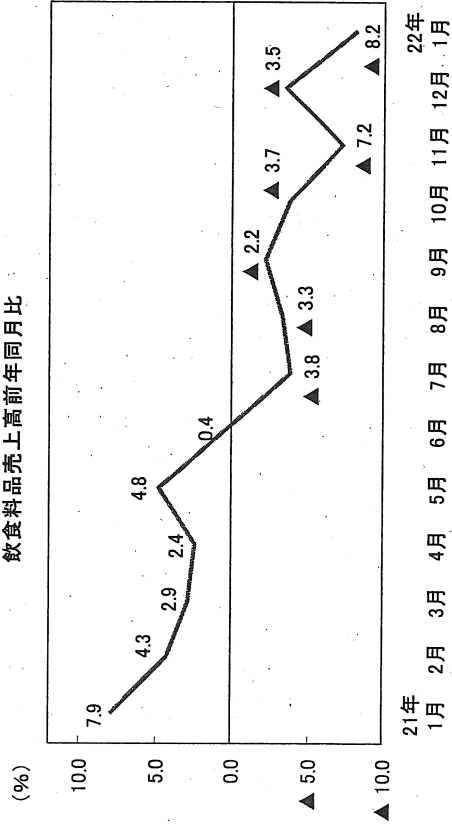
3 飲食料品

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比8.2%減。3か月先の業況見通しDIIは▲66.7から▲53.8となった。

デフレの影響もあり、スーパーでは、買い上げ数が増加しても、客単価が低下している企業もあり、売上が伸び悩んでいる状況が続いている。コンビニにおいても、客単価は低下しており、弁当類の売上が落ち込んでいる。

飲食料品売上高前年同月比



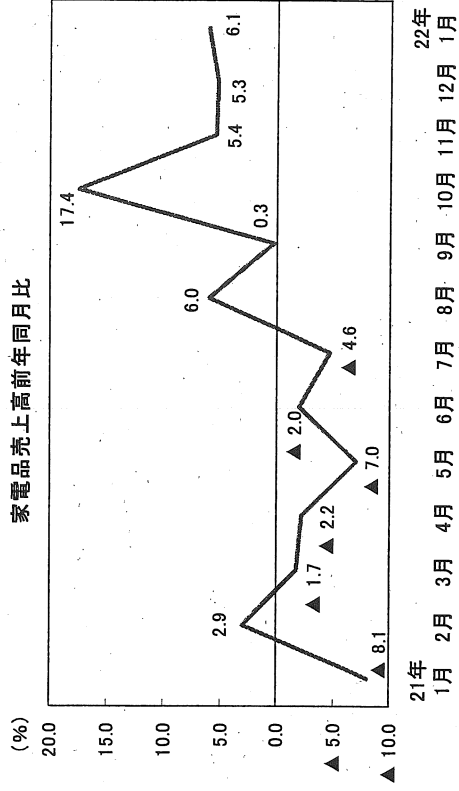
4 家電品

6か月連続プラス、堅調な動き

売上高は前年同月比6.1%増。3か月先の業況見通しDIIは▲40.0と変わらない。

エコポイント制度の効果により、薄型テレビが堅調な推移を続けており、全体として6か月連続で売上高の前年同月比がプラスとなっている。今後も薄型テレビを中心に、堅調に推移することが見込まれる。

家電品売上高前年同月比





# サービス業の動向

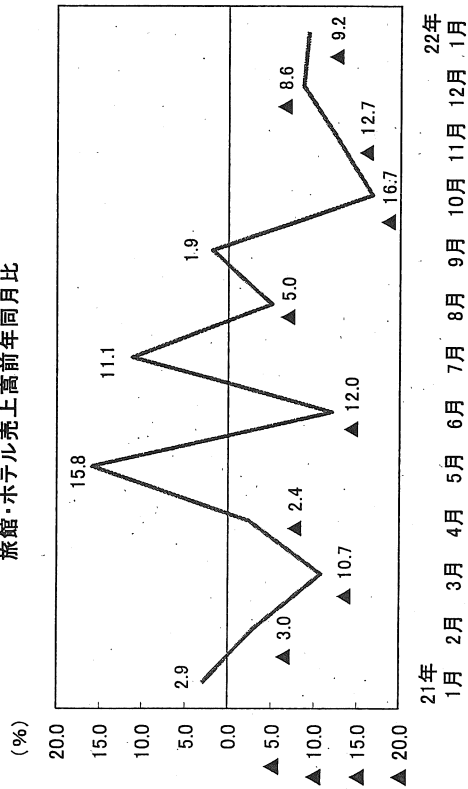
## 1 旅館・ホテル

### 弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比9.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲46.7と変わらな

い。宿泊部門では、一部稼働率が上がった企業もあるものの、客単価は低下している。宴会部門では、新年会の減少などにより落ち込む企業が見受けられた。企業により業況が分かれているものの、総じて見れば弱めの動きとなっている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



## 2 その他サービス

### 情報サービス業の売上増加

売上高は前年同月比20.8%増。3か月先の業況見通しDIは▲41.7から▲25.0となった。

情報サービス業で、国の学校整備事業により、情報関連設備の売上が大きく伸び、全体を引き上げる要因となっている。運輸業では、貨物輸送において、自動車関連部品が好調となっているものの、製品の海外生産へのシフトなどにより、片道積みが多いなど、積荷の確保に苦慮している状況も見受けられる。

その他サービス売上高前年同月比

